

# 令和2年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和3年2月22日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方針 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
自ら学ぶ	子どもたちが話し合い、学び合う授業の推進	B	B	9月からの実施となったトークタイムの取り組みで、話し合うことに関心が高まり、目標値が達成できた。	B	トークタイムの取り組みを通して、児童は育ってきている。	トークタイムを継続し、話すこと・聞くことに慣れさせる。また教員間で公開することで質の向上に努める。
	学習規律の定着	B		質問が、話し方聞き方に重きを置いたものだったため、おおむね目標が達成できた。		丁寧に取り組むことで、基本的な学習規律が身に付いている。	これだけではしっかり指導していくというのを、年度当初に決めて、学年だよりなどで発信する。
	ICTの効果的な活用	A		子どもたちはICTを使った授業のわかりやすさを評価している。全体では、一部の学級でタブレットの有効な活用が見られた。		ICTの活用については、正しい使い方をしっかり指導したい。	タブレットを使うことに慣れさせる。また、ICTありきではなく、学びのツール・支援の一部としての認識を再確認して活用する。
	授業力の向上	B		コロナ禍で制限が多い中、何とか工夫して授業に取り組む姿が伝わり、昨年度に比べて達成度が上がった。		今後も引き続き研鑽を積んでいってほしい。	学びの前提となる読む・書く・計算することを定着させる。また、テーマを絞った授業研究・公開授業をしていく。
豊かな心	礼儀やルールの獲得	C	B	キャンペーンで、挨拶への意識が児童・教員共に高まり、学校内だけでなく、学校外でも挨拶をしている。大子が多くなったが、教職員・保護者は目標値に達していない。	B	学校だけではなく家庭との連携も必要である。さらに、大人が模範を示すことが大切である。	挨拶によってもたらすメリットを、トークタイムや学活、道德などで子ども自身で考える場を設定する。
		B		実態に合わせて、毎月生活目標を掲げたり、委員会を中心に、キャンペーンを行ったり、学校保健委員会で取り上げたりした成果だと考えられる。		委員会活動を通して、児童が自分たちの課題として意識を高めてくれるとよい。	時間を守る、廊下は右側を歩く、トイレのスリッパをそろえるなど、意識できると取り組みを、委員会と協力して考える。
	本好きな子の育成	B		学校でも家庭でも、外に出られないこともあり、本を読む機会が多くなったことで数値が上がったと考えられる。		郷土の偉人等の伝記小説など読書の対象を広げる。学校と家庭との連携で読書量を増やしたい。	委員会中心に、おすすめの本を紹介するなどして、本の対象を広げることで、本が読みたくなるような環境をつくる。
	人とかかわる力の育成	A		9月からの取り組みとなり回数、例年より減ってしまいましたが、委員会や高学年を中心に、異学年集団とのかかわりを深めることができた。		人とのかかわりは大切なことであるので、これからもたてわり活動を継続したい。	異学年集団とのかかわりが深められるように、たてわり活動での内容等を（委員会と協力して）考える。
	いじめに対する意識の高い子の育成	A		いじめはいけないという意識が少しずつ高まっている。道德の授業で、学年で共通のテーマを決めて取り組むことができた。		日々の生活の中から思いやる心を育てていきたい。上級生と下級生とのかかわりも大切である。	道德の授業だけでなく、教育活動全体で思いやり・いじめについての内容を取り扱った授業を実践していく。
じょうぶな身体	基本的な生活習慣の定着	C	B	コロナで、家にいることが多かったため、生活リズムが崩れた。学校での指導を、感染予防に重点を置いたため、数値が低くなった。	B	家庭への配付物などで呼びかけをし、家庭と連携して取り組む必要がある。	学期に一度はげんき週間を実施し、長期休み後に生活習慣を見直す取り組みをする。
	粘り強く運動に取り組む子の育成	B		コロナの影響や暑さ対策で、外へ行く機会が減り、遊びの内容が制限されてしまった。		部活動がなくなり、体力低下が心配である。遊具が少ないが、外遊びで体も心も大きく育ててほしい。	チャレンジコーナー（モーニングチャレンジ）を推奨し、新しい遊び方の紹介を行っていく。
	安全な学校生活の確保	B		大きな事故は少なかった。登下校では、事故につながる（特になら）という基準での評価になってしまった。		登校時は通学団でまとまっているが、下校時、低学年だけになると心配である。危険箇所もふまえて指導したい。	通学団を行えなかったため、登下校の安全を見直す機会があった。安全意識を高める取り組みをしていく。
		B		委員会の取り組みで右側通行の意識が高まったこともあり、全体的には数値が上がった。		委員会の新たな試みがよかった。落ち着いた学校生活を送れるようにしたい。	ルールを守れていない児童が目だったので、廊下のラインの整備や、廊下を走らない意識を高める活動をする。
信頼される学校	子ども一人一人に合った対応	A	A	年度当初の情報交換会を密にしたことや生活サポート委員会などの定期的な情報交換が有効であった。	A	情報交換が大事である。アンケートも続けていくことで、児童の様子をきめ細かくみていきたい。	年度当初の情報交換会や生活サポート委員会などの定期的な情報交換を次年度も継続する。
	地域・保護者とともに行う教育活動	B		コロナの影響で、クラブ活動は講師を招かずに行った。また、授業におけるお手伝いボランティアの招聘もできなかったため、教職員の評価が大きく下がっていると考えられる。		1年の見通しをたて年間計画に入れたことがよかった。コロナで難しかったが、落ち着いた、また始めてほしい。	コロナ禍でも地域の方と関わるように、映像資料などを取り入れることも考えていく。
	家庭や地域への積極的な情報発信	A		学校の様子を知らせるHPのアドレスやブログのアドレス、QRコードを学校だよりに掲載し、家庭や地域に広く知らせていく。 ・学校だより、学年だよりの定期的な刊行とメール配信による効果的な情報発信を行う。		休校中でホームページを活用する保護者が増えた。そのため、学校が始まってからも見ていただけるようになった。	メール配信は、すぐに情報が入ってくるのでよい。

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】